

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	萩市		代表者名	市長 田中 文夫	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	総合政策部DX推進室	連絡先電話番号	0838-21-5477
担当者役職	室長補佐	担当者氏名	山本 剛	連絡先E-mail	
住所	758-8555 山口県萩市大字江向510番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	DX推進員研修・課長級職員向け研修		
概要	「DX推進員」「課長級職員」に対するDXマインドセット研修会の開催				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年6月19日	事前打合せ(オンライン)	10時00分	11時00分	
				活動時間（分）	60
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	令和4年度から継続して支援をお願いしている「DX推進員研修」「課長級職員向けDX研修」の事前打ち合わせでした。特に伝えていただきたいことを説明させていただいたが、ノーコード推進協会の紹介いただいたり、デジタルテバイド対策における助言をいただくことができて、今後の方向性を明確にすることができた。
アドバイザーへの要望事項	研修の開催に向け、引き続きご支援を賜りたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	2人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	0	0
	住民	0	0
	人数	2	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	萩市では令和3年度7月にDX推進の専門部署を設置し、「DXによる幸せなまちづくり」を目指してDX推進に取り組んでいる。現時点では、DX推進室が中心となり、国策定の自治体DX推進計画に掲げられた内容を主に取り組んでいるところだが、各部局での自発的な取組は過去の本事業の取組により徐々に広がりを見せてはいるものの、まだまだ不足しており、職員のさらなる育成（DXマインド醸成・ITリテラシー向上）が課題となっている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	「課長級職員」ならびに各部局に配置している「DX推進員」に対して研修を行っていただくが、以下を目指す成果とします。共通してDXに対する理解と積極的な姿勢を持つこと。「課長級職員」については、BPRの推進により、無駄な業務を削減し、より付加価値の高い業務に所属職員を集中させることなど。「DX推進員」については今年度導入を予定している生成AIの活用方法を理解し、実践すること、所属長に対してDXに関する具体的な提案を行い、所属全体のDX推進をサポートすることなど。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	研修の内容について協議、今後のDX推進について助言(助言内容は以下のとおり) ・デジタルデバйд対策としては、高齢者に目を向けることはもちろんだが、むしろお年寄りに教える側の立場の方(職員や民生委員等)をターゲットにした方が効果が上がる ・萩市で導入しているローコードツールKintone(キントーン)について、自治体も参加している「ノーコード推進協会」を活用して自治体職員とも情報交換をすることなどのアドバイスを受けました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	デジタルデバйд対策や、ローコードツール、テレワークにおけるBPRの重要性など、今後DXを推進する内容においてヒントとなるアドバイスをいただいた。 デジタルデバйд：高齢者ではなく教える側の立場にある人をターゲットにする。 ローコードツール：自治体職員との情報交換可能な場 テレワーク：人事課は制度を作るかもしれないが、何をさせるかは管理職の役割において整理をさせることが必要	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 事前打ち合わせのため、まだ具体的な成果物はございません。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	2回目の支援において、DX推進員研修を開催予定	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 事前打ち合わせのため、アンケートは取っていません。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③现阶段では課題・問題が残っているため未定 事前打ち合わせのため、まだ具体的な計画はございません。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	公共サービスのデジタル化やデジタルを活用した地域産業課題に対する施策を立案しやすくする環境の整備を目指すことにより、行政手続きの時間削減や、地域事業者の競争力向上による地域活性化に繋げる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



